

渡良瀬遊水地に関する情報発信

情報発信施設

渡良瀬遊水地では、下図の施設で渡良瀬遊水地の利活用及び湿地環境等に関する情報を発信しています。

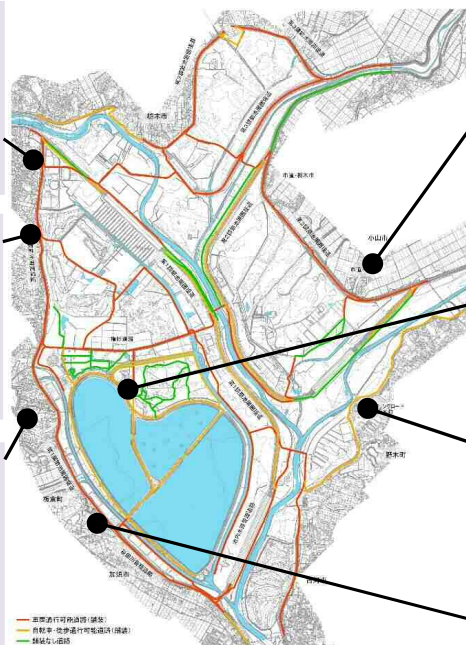
渡良瀬遊水地ハートランド城



渡良瀬遊水地湿地資料館



わたらせ自然館



渡良瀬遊水地コウノトリ交流館



体験活動センターわたらせ



野木ホフマン館



道の駅がぞわたらせ



交流イベントの実施・発信

4市2町により、年間を通して渡良瀬遊水地に関する様々な交流イベントを開催しています。

時期	イベント名	時期	イベント名
3月中旬	三県境フェア (栃木市・加須市・板倉町)	8月上旬	古河花火大会 (古河市)
4月上旬	渡良瀬バルーンレース・藤岡さくらまつり (栃木市)	10月	煉瓦窯秋フェスタ (野木町)
4月中旬	生井桜まつり (小山市)	10月上旬	渡良瀬遊水地まつり in KAZO (加須市)
5月	煉瓦窯春フェスタ (野木町)	10月下旬	ヨシ灯り展 (小山市・栃木市)
7月	渡良瀬遊水地フェスティバル (栃木市)		

渡良瀬遊水地内で開催される色々な団体による各種イベントの最新情報は、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団のホームページ (<https://watarase.or.jp/event/>) にて、随時公開しています。
《右の二次元コードよりアクセスできます。》

二次元バーコード



ラムサール条約湿地 渡良瀬遊水地

ラムサール条約湿地登録10年間の歩み



渡良瀬遊水地保全・利活用協議会

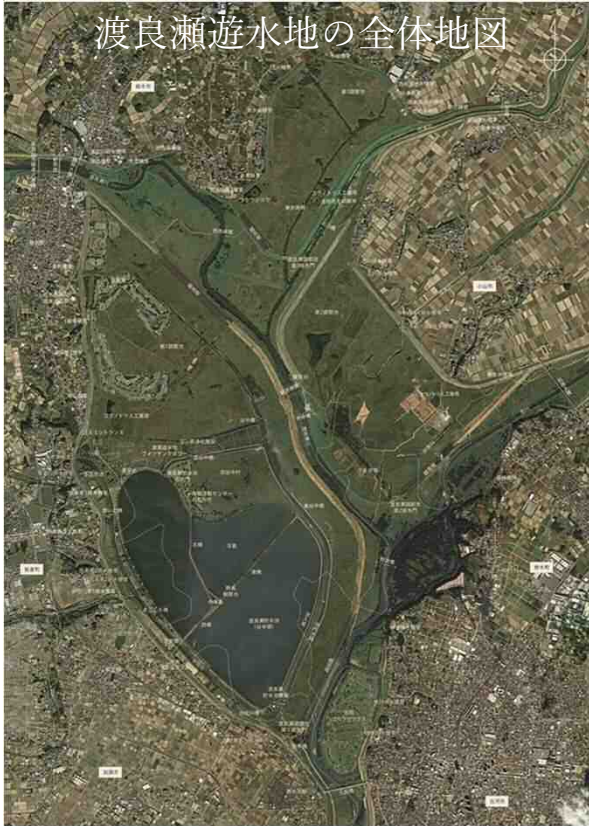
制作：渡良瀬遊水地保全・利活用協議会

発行年月：2022年7月

お問合せ：国土交通省利根川上流河川事務所調査課 TEL0480-52-3958

渡良瀬遊水地の概要

渡良瀬遊水地の全体地図



渡良瀬遊水地は、栃木・茨城・群馬・埼玉の4県4市2町にまたがる本州以南最大の湿地で、治水の要として首都圏の生命・財産を守っています。

ラムサール条約に登録された、国際的に重要な湿地であり、絶滅危惧種のチュウヒをはじめ、貴重な動植物が多数生息する「自然の宝庫」です。



ラムサール条約と渡良瀬遊水地

渡良瀬遊水地は東京から60km圏内にありながら、3,300haという広大な敷地に湿地としての環境を保っていることで貴重な空間となっています。特にヨシ原は1,500haと、本州では最大の面積を誇っています。

こうした豊かな環境には、さまざまな動植物が見られます。チュウヒなどの猛禽類をはじめとする鳥類や、ミズアオイをはじめ1,000種以上に及ぶ植物が見られ、まさに自然の宝庫といえるでしょう。

また、ヨシ焼きなど人が手を加えることで自然を活かす営みも普通に続けられています。

豊かな自然と手をたずさえて人が生きている、それが渡良瀬遊水地なのです。渡良瀬遊水地は、2012年7月にラムサール条約湿地に登録されました。登録の目的は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地及びそこに生息する動植物の保全と、その適正な利用（ワイズ・ユース）の促進」となっています。



ラムサール条約とは？

ラムサール条約は1971年2月2日にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約です。正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。

日本国内では2021年11月現在、合計53か所の湿地が登録されています。

ラムサール条約の3つの柱

条約の目的である湿地の「保全・再生」と「ワイズユース（賢明な利用）」、これらを促進する「交流、学習（CEPA）」。これら3つが条約の基盤となる考え方です。



①保全・再生
水鳥の生息地としてだけでなく、私たちの生活を支える重要な生態系として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけています。

②ワイズユース（賢明な利用）
ラムサール条約では、地域の人々の生業や生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用（Wise Use:ワイズユース）」を提唱しています。「賢明な利用」とは、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用することです。

③交流・学習（CEPA）
ラムサール条約では、湿地の保全や賢明な利用のために、交流、能力養成、教育、参加、普及啓発（CEPA：Communication, Capacity building, Education, Participation and Awareness）を進めることを大切にしています。

治水・利水施設としての役割

● 渡良瀬遊水地の治水機能

渡良瀬遊水地は、増水した川の水を一時的に貯め洪水被害を防ぎ、地域と首都圏の安全な生活を支える重要な役割を担っています。

2000年以降、渡良瀬遊水地周辺で大規模な台風・大雨による被害が7回あり、特に2015年9月の関東・東北豪雨では、約1億700万m³を、2019年11月の台風19号では、過去最大の約1億6,000万m³を貯留しました。

表：2000年以降の主な台風・大雨

発生年	名称	貯留量
2001年	台風15号	約8,100万m ³
2002年	台風6号	約7,800万m ³
2007年	台風6号	約5,400万m ³
2011年	台風15号	約4,900万m ³
2015年	関東・東北豪雨 (台風17・18号)	約1億700万m ³
2017年	台風21号	約5,500万m ³
2019年	台風19号	約1億6,000万m ³



● 渡良瀬遊水地の利水機能

渡良瀬遊水地にあるハートの形をした池は「渡良瀬貯水池(谷中湖)」です。渡良瀬貯水池は、首都圏が水不足になった際に、利根川上流のダム群との連携により生活用水の補給や河川に流れる水量を適切にする働きを有しています。また、品質の良い水を供給するため、自生するヨシを活用した水質改善対策を行っています。



ヨシ原浄化施設

渡良瀬遊水地における取組み

保全・再生

ヨシ焼き



渡良瀬遊水地では、ヨシ作りに必要な良質なヨシを育てるため、毎年3月にほぼ全域にわたり、「ヨシ焼き」が行われます。このヨシ焼きは、よいヨシを育てる以外に、自然環境を保全する次のような効果を持つことが注目されています。

- ①ヨシ原の樹林への遷移を抑制し、ヨシ原を保全する。
- ②ヨシが繁茂する前に生長する、多様な春植物の発芽に必要な十分な日照を確保する。

鳥類の保全



日本野鳥の会栃木県支部 提供

渡良瀬遊水地には、オオセッカなどさまざまな鳥類が生息しています。チュウヒをはじめとする多くのワシタカ類の越冬地でもあり、飛来する鳥類の個体数を調査するため、日本野鳥の会県支部などが中心となり、平成4年から「ワシタカカウント」を実施しています。

外来種駆除



●ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦
小山市・栃木市・野木町ではラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」の貴重な湿地環境を保全するため、関係機関・団体やボランティアと合同で、湿地の希少植物の生育に悪影響を及ぼすヤナギやセイタカアワダチソウの抜き取り作業を平成26年度から実施しています。



●おさかなワイワイ大作戦
小山市では、第2調整池にて、水生生物を駆逐してしまうおそれのある「オオクチバス」や「ブルーギル」等の外来魚の駆除を目的として、ボランティアと合同で、地引網による捕獲と在来魚との選別作業を実施しています。

調節池の中で外来種の除去活動が行われている一方、渡良瀬川や思川の川岸ではアレチウリなどの特定外来生物が広範囲で確認されています。

また、第2調整池の掘削地の一部では、ヨシ原からヤナギ林への環境の変化が確認されています。イノシシの目撃情報が増えており、利用者の安全のため注意喚起も行われています。



湿地の保全・再生に向けた取組み

かつての渡良瀬遊水地には大小の池沼が点在し、多様な在来の植物などが生育していました。しかし、昭和30年代以降には地下水位の低下により湿地の乾燥化が進み、遊水地特有の貴重な在来の植生が失われ、セイタカアワダチソウ等の外来種が拡大するなど環境が悪化してきました。

そこで、失われた湿地環境を再生するために、乾燥化し環境が悪化した場所を掘削し、かつての湿地環境の再生を目指す取組みが国土交通省 利根川上流河川事務所を中心に進められています。

この取組みの結果、2012年時点では2.8haだった湿地面積が、2021年3月現在では、約90.8haまで拡大しました。

そのほか、各自治体や団体によるヨシ焼きや外来種駆除等の環境保全活動も進められています。これらの取組みの効果もあり、遊水地内に生息する動植物の数も回復しつつあります。特に植物の種数は、969種（2009年）から995種（2018年）に増加したほか、鳥類の重要種数も68種（2007年）から77種（2017年）に増加しました。

また、これまでオカボトビハムシとして図鑑に掲載されていた昆虫が研究の結果複数種含まれていることが判明し、2021年に「ワタラセヒサゴトビハムシ」という新種の昆虫として発表されました。この貴重な昆虫も渡良瀬遊水地には数多く生息しています。



コウノトリの飛来・野外繁殖

渡良瀬遊水地の周辺自治体・団体では、コウノトリの定住促進のための取組みに力を入れており、採餌できる水田を増やすためのふゆみずたんぼ・なつみずたんぼや、人工巣塔（遊水地内に計3か所）の設置などの取組みがなされています。



遊水地周辺の水田で採食するコウノトリ



掘削地に降り立つ「ひかる」ファミリー

横田耕司氏 提供



人工巣塔へ巣材を運ぶコウノトリ

内田孝男氏 提供

このような取組みの効果もあり、2014年以降、渡良瀬遊水地ではコウノトリの飛来が確認されるようになりました。

特に、2018年にはコウノトリが長期滞在して巣作りをする様子が確認され、ついに2020年には東日本初となる野外繁殖によるコウノトリのヒナ「わたる」、「ゆう」が「ひかる」・「歌」ペアに誕生しました。

また、2021年にはコウノトリのヒナ「りょう」、「のぞみ」が「ひかる」・「レイ」ペアに誕生しました。

2022年にもヒナの誕生が確認され、渡良瀬遊水地周辺では更なる繁殖ペアの増加も期待されています。

これからもコウノトリの定着・繁殖を目指して、周辺自治体・団体が連携し保全活動・観察を続けていきます。



「りょう」が巣立ちする瞬間

横田耕司氏 提供

渡良瀬遊水地における取組み

ワイズユース（賢明な利用）

ヨシづくり



1907年に谷中村が廃村になり、人が住まなくなった土地や耕作地には、良質なヨシが自生するようになりました。ヨシづくりが大きな産業になったのはその頃からのこととなります。

ヨシは、12月から翌年3月に収穫し、加工されます。以前は、小山市の生井地区、栃木市の藤岡地域、野木町の野渡地区で100軒以上の農家が、農閑期である冬期の収入源としてヨシづくりを盛んに行っていましたが、昭和50年後半から輸入品やビニール製品が普及してきてヨシ産業は衰退。今では数件を残すだけになりました。

スポーツアクティビティ



渡良瀬遊水地の上空には障害物がほとんど無いため、熱気球、スカイダイビングなどのスカイスポーツが盛んです。

また、谷中湖を利用したカヌー・ウインドサーフィン・ボートなどのウォータースポーツや釣りをはじめ、遊水地内を巡るサイクリング・マラソン・ウォーキングも毎日のように楽しまれています。さらに、ゴルフ場やグラウンドといったスポーツ施設が充実していることもあり、渡良瀬遊水地はさまざまなスポーツアクティビティを楽しむことができる場所として、多くの人々から親しまれています。

トータルデザイン



地域の個性や価値・魅力を明確に伝えるための戦略（＝トータルデザイン）の考えに基づき、関係者が共通する目指す将来の姿（コンセプト）の下で、情報発信を行うための、分かりやすい標語（スローガン）やイメージ（キーエレメント）を作成しました。

また2020年には、このトータルデザインに基づき作成した案内看板を、第二調整池の堤防上に設置しました。



渡良瀬遊水地
Watarase-yusuichi

ロゴマーク

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会では、2012年7月にラムサール条約湿地登録5周年記念として、ロゴマークを募集・決定しました。



コンセプトは「渡良瀬遊水地は4県にまたがる、多様な生き物の憩いの場」で、4つの曲線は、栃木・群馬・埼玉・茨城の「4県」と野鳥・植物・昆虫・魚の大きく分けて「4種」の多様な生き物からなる遊水地の生態系を表しています。中央のハートは「ハート池」の形を象っており、「生き物の憩いの場」という意味を込めました。色は4県のマークの色と、水をイメージした色を使用しました。親しみやすさとマークとしての汎用性を考え、全体を円の形にまとめました。

広報資料



『渡良瀬遊水地自然と人にやさしい10のマナー』

- 発行年：2015年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：渡良瀬遊水地の貴重な自然を保全し次世代に引き継ぐため、また渡良瀬遊水地を訪れるたくさんの方が安全に渡良瀬遊水地を利用できるように、安全な利用のためのマナーをまとめました。

『渡良瀬遊水地ラムサール条約湿地登録5周年記念カード』

- 発行年：2017年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：ラムサール条約湿地登録から5周年を迎えるにあたり、計7種類の記念カードを配布しました。



『渡良瀬遊水地サイクリングロードマップ』

- 発行年：2021年
- 栃木市
- 内容：渡良瀬遊水地における自転車利用をより楽しんでもらえるよう、初心者から上級者まで楽しめるおすすめのコース情報や周辺施設をまとめました。また、皆さんが安全に走行できるように、利用ルールを記載しマナー啓発を行っています。

『わたらせシールラリー2020』

- 発行年：2020年
- 渡良瀬遊水地保全・利活用協議会
- 内容：期間中に開催される対象イベントに参加することでもらえるシールを集めて、応募するイベントです。



『渡良瀬遊水地キャラクターアニメ』

- 発行年：2022年
- 栃木市
- 内容：渡良瀬遊水地のキャラクターを活用して更なるPRを図るため、キャラクターアニメーション動画を3本制作しました。アニメーションを通して「キャラクター紹介」、「自然紹介」、「レジャー紹介」を行っています。



『渡良瀬遊水地PV』

- 発行年：2022年
- 利根川上流河川事務所
- 内容：「渡良瀬遊水地は東京から1時間半。のんびりと豊かな自然に出会う旅」をコンセプトに、渡良瀬遊水地の魅力を伝えるためのプロモーションビデオを作成しました。



渡良瀬遊水地における取組み

交流・学習

環境学習の促進

一財) 渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、わたらせ未来基金、各自治体などが中心となって、定期的に渡良瀬遊水地の自然環境について学ぶイベントが開催されています。

●小・中学生を対象とした環境・体験学習の支援



小・中学生を対象とした環境・体験学習

渡良瀬遊水地の自然環境を活かし、小・中学生を対象に動植物・歴史等をテーマとした環境・体験学習の支援を定期的実施しています。

また、夏期には小学生を対象に「夏休み宿題サポート教室」を開催しており、遊水地内の動植物・歴史についての質問を専門家に相談したり、ヨシや石を使った工作を体験したりできます。



渡良瀬子ども自然塾

「渡良瀬子ども自然塾」では、渡良瀬遊水地と周辺地域の自然や伝統とのふれあいを通じて、子ども達の生きる力と地域や自然環境を大切にする心の育成を目指して、小学生を対象に毎年10月から4月まで月1回開催しています。毎月季節に合わせて以下の催物を行っています。

- ・遊水地のヨモギ摘みと草餅つき
- ・遊水地内での生きもの調査

●動植物観察会



渡良瀬遊水地の自然環境への理解を深めていただくために、定期的に野鳥や動植物の観察会を定期的実施しています。

また、ツバメのねぐら入りツアー（8月頃）、チュウヒのねぐら入りツアー（12月頃）など、観察イベントも随時開催しています。

民間企業のCSR活動



株式会社オリジン 提供

渡良瀬遊水地で行われる「ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦」や「渡良瀬遊水地クリーン作戦」などの環境保全活動には、CSR活動※の一環として、毎年多数の民間企業が参加します。

※CSR (Corporate Social Responsibility) とは、利益追求・法令遵守だけでなく、あらゆる利害関係者（社員、消費者、環境、地域社会など）の多様な要求に対して企業が適切な対応をとるといふ、企業の社会的責任のことです。

渡良瀬遊水地の環境を活かした活発な教育・交流活動



ヨシ灯りのイベント

下野新聞 提供

渡良瀬遊水地では、豊かな自然環境を保全するための活動や、その環境を生かした教育活動・交流イベント・スポーツイベントなどが年間を通じて開催されています。特にラムサール条約湿地への登録後は、渡良瀬遊水地周辺の4市2町が連携してイベントを行う機会が増えました。栃木市と小山市は、遊水地の特産品であるヨシを活用した「ヨシ灯り」でライトアップを行うイベントを実施しています。

環境学習発表会



渡良瀬遊水地は、豊かな自然や歴史などに触れることができる貴重なフィールドであり、環境教育の場として近隣の小・中学生や地域住民のための環境・生涯教育を行う場として利用されています。

毎年、渡良瀬遊水地沿川4市2町（栃木市、小山市、古河市、加須市、野木町、板倉町）の教育委員会により推薦された代表小学校により環境学習発表会も行われており、渡良瀬遊水地に関する理解を深めるとともに、県境を越えた児童等の交流を図る機会にもなっています。

夏休み宿題サポート教室



「体験活動センターわたらせ」では、子どもたちの夏休みの自由研究に生かしてもらい、また、夏休みの宿題解決のお手伝いをするとの思いから、「夏休み宿題サポート教室」を企画・開催しています。石に絵をかく「ストーンペイント」、ヨシを使った「ヨシ紙作り」、どんぐりや木の枝を使った「やじろべい」や「鉛筆作り」、「竹笛作り」などの工作体験や遊水地のヨシを使った「ミニよしずり」などを行ってきました。

